取扱説明書

ご注意

●本プログラムを使用する際、下記の点をご注意下さい。

⇨使用後は必ずもとのケースにもどして下さい。

⇨ディスク、テープの磁性面には手を触れないで下さい。

⇨磁気を近づけないで下さい。

⇨折曲げ、衝撃は避けて下さい。

フロッピーディスクの場合

⇨フロッピーディスクドライブは各メーカー指定の純正品を必ずご使用下さい。それ以外は保証しかねます。

お問合せ

●問合せについては、同封のアンケートはがき、または官製はがきにてお願い致します。

●また、万一正しく作動しない場合は、お手数ですがソフト不良の状況、お手持ちの機種を調査の上、お買い求めになられましたお店に御相談下さい。

〒102　東京都千代田区九段北4－3－31

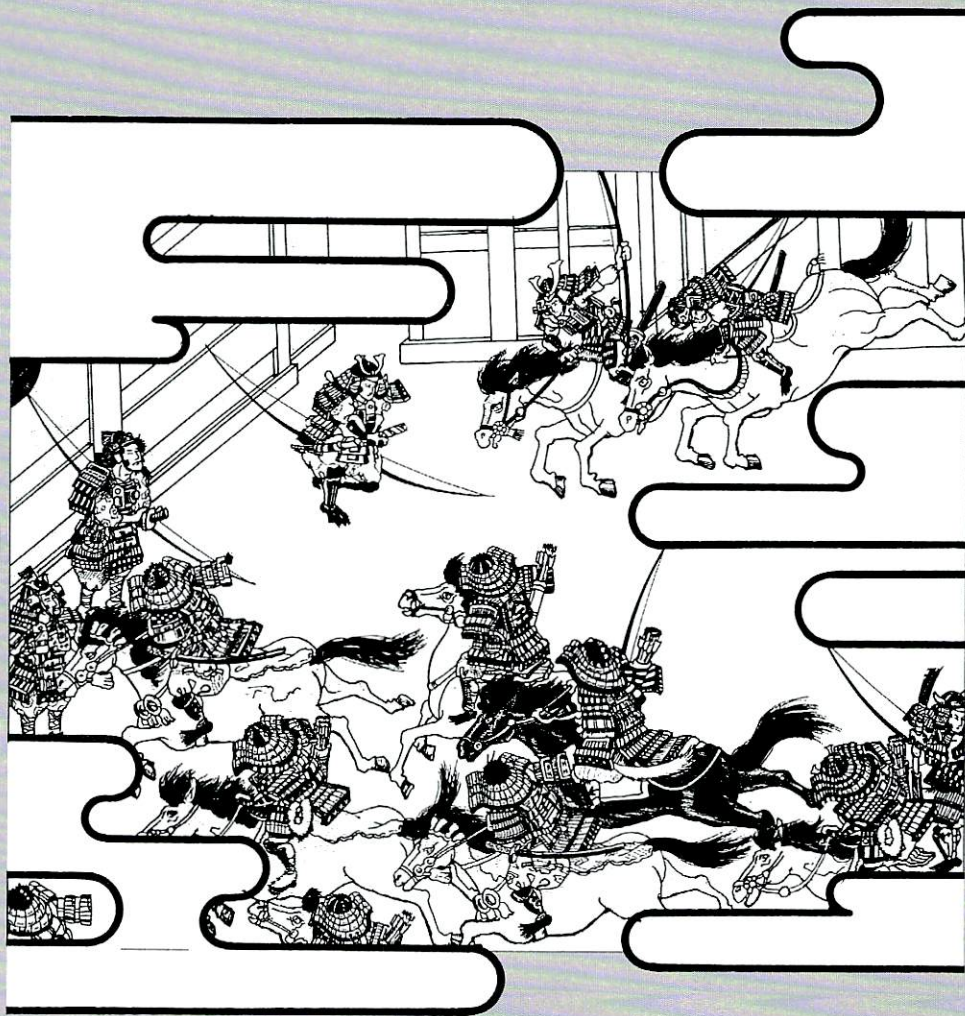
(株)ポニーキャニオン　ポニカ制作部

〈目次〉

将棋研究の

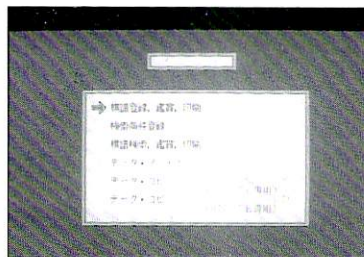
はじめに

この「赤富士」は、第２期竜王戦、第48期名人戦など、
平成元年から平成２年初旬までの期間に行われた公式プロ棋戦を
収録したデータベース・ソフトです。
日本将棋連盟が発行している平成２年版「将棋年鑑」を基に、
中原誠名人、谷川浩司竜王などによる東西名棋士の熱戦484局を、
わかりやすい解説を加えながら、
簡単な操作でコンピュータが再現します。
また、自分で新たな棋譜を入力・保存することもでき、
個人レベルでの将棋研究の情報ツールとして便利に利用できます。
種々の検索機能や処理機能も充実。
棋力アップの将棋データベース・ソフトとして、
この解説書をよくお読みになり、
十分にご活用下さい。

情報ツール

「赤富士」のスタート

●起動方法

本体の電源を入れ、ドライブ1に「プログラムディスク」、ドライブ2に「データディスク」を挿入し、フロッピーディスク装置のレバーをロックしてから、本体のリセットスイッチを押してください。自動的にプログラムの読み込みが始まり、しばらくすると「赤富士」のタイトル画面があらわれます。

タイトル画面が消えると、次に「メイン・メニュー」画面があらわれます。「メイン・メニュー」とは、これからこのソフトを操作する基本となるメニューで、その内容は、以下の6つに大きく分かれています。

①「棋譜登録、鑑賞、印刷」

主に"データディスク"に入力されている484の対局を再現するメニューです。自分で新たな棋譜を入力し、保存、再現する時にも利用します。また、それらの棋譜を印刷することもできます。

②「検索条件登録」

"データディスク"に入力されている484局の熱戦の中から、ある条件(対局者､棋戦名､戦型､局面)を指定し､素早く検索するための条件を登録するメニューです。また、自分で入力したオリジナルのデータディスクにも同様に登録できます。

③「棋譜検索、鑑賞、印刷」

登録した検索条件で棋譜を素早く検索し、検索した棋譜を再現するメニューです。また、その棋譜を印刷することもできます。

④「データ・メンテナンス」

自分で新たな棋譜を入力するために必要になるフロッピーディスク(データディスク)を、初期化したりコピーしたりするメニューです。入力したデータを削除したり対局者、棋戦名、戦型の登録などのメンテナンスも行えます。

⑤データ・コピー(FD→RAMディスク)

98NOTEで使用するとき、データディスクのデータをRAMディスクへコピーするメニューです。赤富士起動直後に必ず実行します。

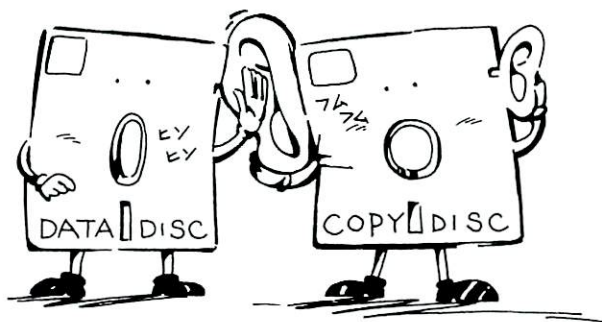
⑥データ・コピー(RAMディスク→FD)

98NOTEで使用するとき、RAMディスクのデータをデータ・ディスクへコピーするメニューです。データの変更、追加、削除をした時、「赤富士」終了前に必ず実行します。

メイン・メニューの矢印は、[↑][↓]キーまたは8(↑)2(↓)キーで上下に移動します。目的のメニューで[SPACE]キーを押すと、そのメニューへ進むことができます。[ESC]キーを押すと、タイトル画面の表示へ戻ります。

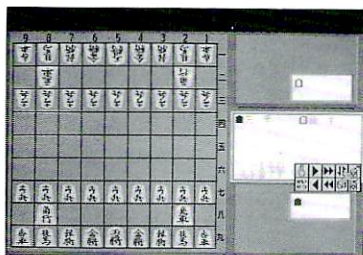
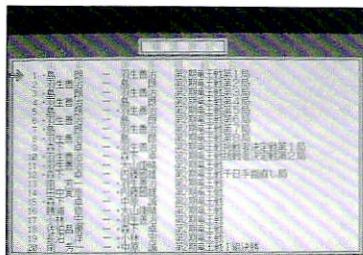
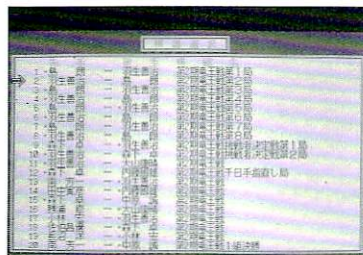
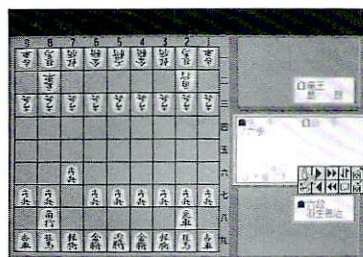
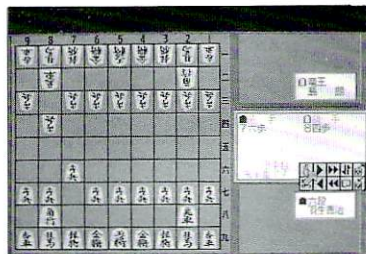
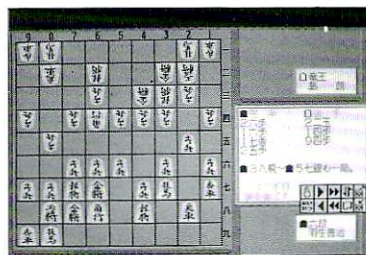
注意! *まずはデータディスクをコピーして下さい。*

「赤富士」を始める前に、まず、484の棋譜が記録されたデータディスクをユーザー専用のディスクにコピーして下さい。これは、操作ミスによるデータ破壊防止のためで、通常はコピーディスクを使用し、元のディスクを保管しておけば、万一壊れたときにも安心です。

データ・メンテナンスで生ディスクフロッピーを初期化し(P.18参照)、初期化が終ったらそのまま「データ・ディスク間のデータ・コピー」を選び[SPACE]キーを押し、次に「データ・ディスク全体のコピー」を選択し、画面に表示される指示に従ってコピーを進めて下さい。コピーが終ったら、ドライブ2のデータディスクを取り出し、ドライブ1のコピーディスクをドライブ2に挿入し、プログラムディスクをドライブ1に挿入してロックして下さい。[ESC]キーを2度押すと、「メイン・メニュー」に戻ります。

第一章　プロ棋戦四八四四局を再現する

●棋戦の再現方法

メイン・メニューの「棋譜登録、鑑賞、印刷」に矢印を指定し、[SPACE]キーを押して下さい。画面が切り換わり、将棋盤のグラフィック画面が表示されます。

画面右下にある矢印のカーソルを[↑][↓][←][→]または8(↑)2(↓)4(←)6(→)キーでアイコンの（データのロード）の位置に動かして[SPACE]キーを押します。

画面が切り換わり、"棋譜選択画面"があらわれます。これは、入力されている対局の概要を説明する一覧表で、[ROLL UP](次表へ進む)、[ROLL DOWN](前表に戻る)キーを押すことにより、484局全てのデータを観覧することができます。なお、対局者名の横についている赤印は、その対局の勝利者を意味します。

適当な対局を矢印で指定し、[SPACE]キーを押して下さい。画面が切り換わり、将棋盤のグラフィック画面が表示されます。

いよいよ対局の再現が始まります。画面右下にある矢印のカーソルを、アイコンの▶の位置に動かして[SPACE]キーを一度押して下さい。

盤上で先手番の駒が動き、メッセージボードにその指手が表示されます。再度[SPACE]キーを押すと今度は後手番の駒が動きます。

こうして再現を進めて行きます。途中、手を戻したきときは、矢印をアイコンの◀の位置に動かして[SPACE]キーを押して下さい。また途中、ポイントとなる局面でメッセージボードに局面解説が表示されます。その時には[SPACE]キー以外のキーを押し、さらに再現を進めて下さい。

●アイコンコマンドの説明

…棋譜入力

かいせつ…局面解説入力

▶…手を一手進める。

◀…手を一手戻す。

▶▶…棋譜を連続で高速再現する(途中ストップは[SPACE]キー)。

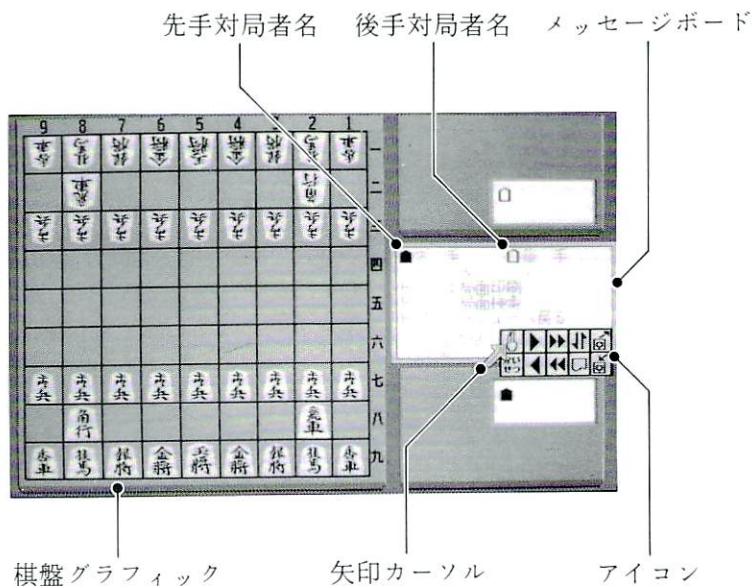
◀◀…棋譜を連続で高速手戻する(途中ストップは[SPACE]キー)。

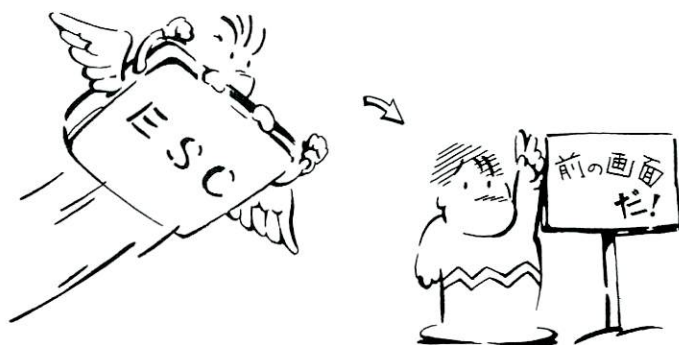
⇅…盤面を反転させる。

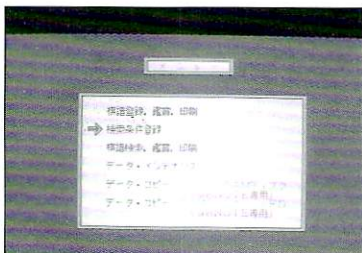
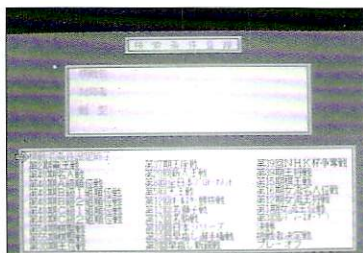
…棋譜をプリントする(プリンタを本体に正しく接続し、電源を入れてから[SPACE]キーを押して下さい。その対局の棋譜がプリントされます)。

…データのロード(データディスクから棋譜を呼び出します)。

…データのセーブ(データディスクに棋譜を保存します)。

●画面説明

注意！ *キャンセルは[ESC]キーで！*

再現途中や再現終了時に、メイン・メニュー画面に戻るときや棋譜選択画面をキャンセルする時には[ESC]キーを押して下さい。

第二章　棋譜を条件検索する

将棋年鑑の484の棋譜、または自分で入力したオリジナルの対局データの中から、見たい棋譜の条件をあらかじめ登録するのが「検索条件登録」です。メイン・メニューから「検索条件登録」を指定し、[SPACE]キーを押して下さい。なお、将棋年鑑484局の棋譜が記録されたデータディスクは、操作ミスによるデータ破壊防止のため書き込みできなくなっています。データメンテナンスを利用してデータディスク全体のコピーをしたものを使用してください。

画面が切り換わり、"検索条件登録画面"があらわれます。これからあなたが希望する棋戦の条件を指定していくわけですが、この指定できる条件とは、①棋戦名、②対局者名、③戦型、④駒の位置(局面)の４種類があります。これらを単・複合的に指定することにより、見たい棋戦をコンピュータが効率的に検索してくれます。では、これからその指定方法を、わかりやすく例をとりながら説明していきましょう。

例１：第48期名人戦での中原誠棋士の棋譜を検索する

①検索条件登録

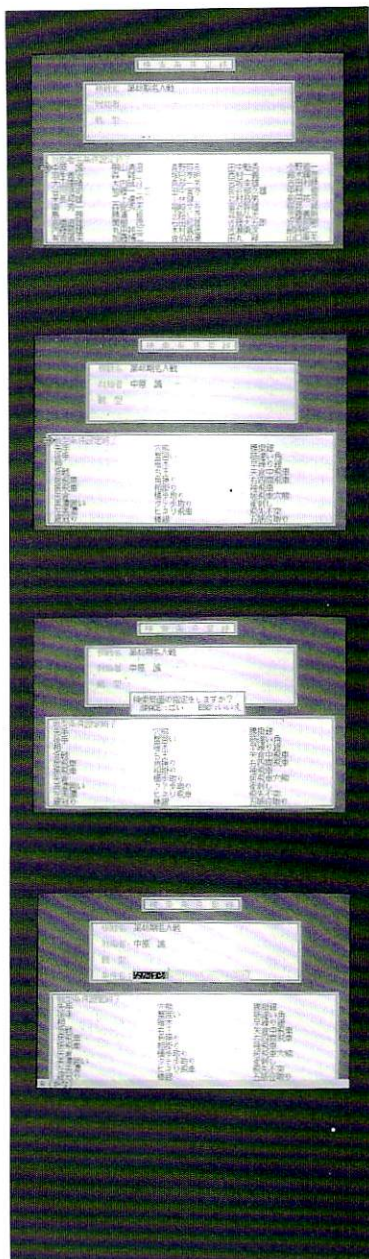
"検索条件登録画面"の下にあるウインドの棋戦名条件の中から、「第48期名人戦」を矢印で指定し、[SPACE]キーを押して下さい。なお、こうした一連の検索画面は、[ROLL UP]または[ROLL DOWN]キーで、表示されていない別の入力リストが表示されます。

棋戦名が上部ウインドに表示され、棋戦名の指定が終了しましたので、「棋戦名条件設定終了」を確定するためもう一度[SPACE]キーを押して下さい。

次に対局者名のウインドがあらわれますので「中原　誠」を矢印で指定し、[SPACE]キーを押して下さい。この例の場合、対戦相手の条件は特にありませんので、そのまま「対局者名条件設定終了」を確定するため再度[SPACE]キーを押して下さい。

次に戦型のウインドがあらわれますが、特に指定条件はありませんので、「戦型条件設定終了」を確定するために[SPACE]キーを押して下さい。

画面中央部に「検索局面の指定をしますか？」という小さなウインドが出現します。これは、対局過程での駒の位置(局面)を指定するもので(詳しくは例2参照)、この例では指定条件はありませんので、[ESC](いいえ)キーを押します。

上部ウインドの“条件名：”の横にブルーのラインと黒いカーソルがあらわれます。これからこの検索条件に名前(検索条件名)を入力します。英文で入力する場合はそのまま、日本語で入力をする場合は[CTRL]+[XFER]キーで日本語入力を呼びだし(画面下部のラインに“R(かな)”と表示されます)、適当な名前を入力して下さい(日本語入力の詳しい方法は、本体購入時に付随してくるユーザーズマニュアルの日本語入力をお読み下さい)。

文字入力が終りましたら、[↵]キーを2回押して下さい。画面が切り換わり、検索条件を登録する画面があらわれます。1～20の登録番号中から適当な番号を矢印で指定し、[SPACE]キーを押して下さい。ピッという音がして、画面右上に「変更前のデータが失われます」と書かれたウインドが出現します。これは、前に入っていたデータを消してもいいですかという確認の質問ですので、[SPACE](実行)キーを押して検索条件の登録を実行して下さい。

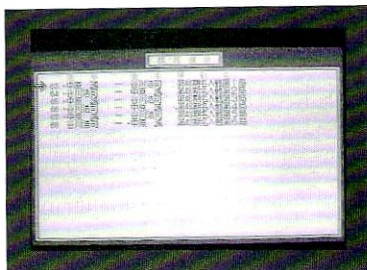
②棋譜検索

画面が切り換わりメイン・メニューに戻ります。「棋譜検索、鑑賞、印刷」を矢印で選択し、[SPACE]キーを押して下さい。“検索データ画面”の「検索条件」に、さきほど入力した検索条件名が表示されているはずです。

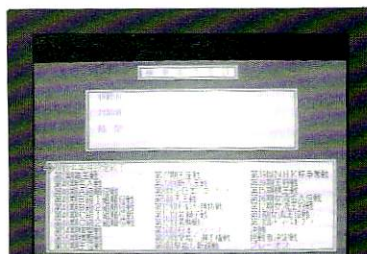
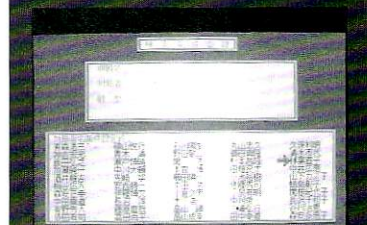
この検索条件を全データの中から検索するために、検索対象に「全データ」を指定して[SPACE]キー、次に入力し検索条件名を指定して[SPACE]キーを押して下さい。画面右上に「検索中」の小さなウインドがあらわれ、検索が始まります。484局全ての検索が終ると、検索棋譜数の結果(この場合6局)と、「検索結果を保存しますか？」という質問がウインドにあらわれます。

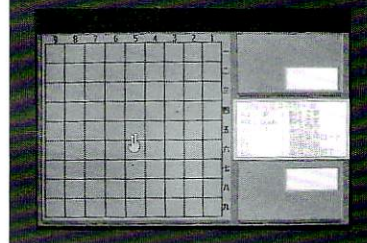
これは、「条件検索で得られた6局のデータを保存しますか？」という意味で、「はい」の場合は[SPACE]キー、「いいえ」の場合は[ESC]キーを押して下さい。保存する場合は、“検索条件の登録”と同じ要領で適当な検索結果名を入力し、[↵]キーを押して下さい。データは、画面左の「検索対象」の欄に登録されます。

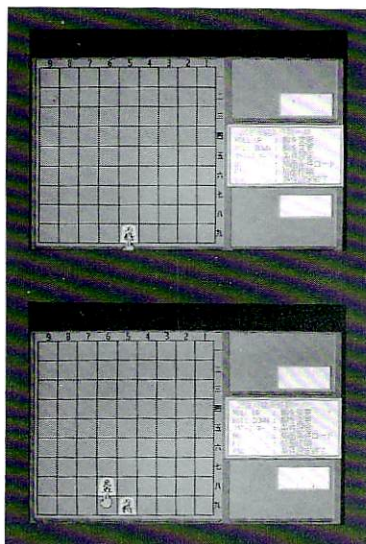
③棋譜再現

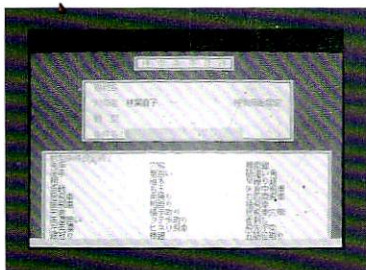
検索結果の登録が終ると、6局の棋戦が羅列した“棋譜選択画面”に切り換わりますので、その中から見たい棋譜を矢印で選択し、[SPACE]キーを押します。

例2：林葉直子棋士の“5九玉・6八飛”の局面を検索する

①検索条件登録

例1に従って“検索条件登録画面”を呼び出します。最初の“棋戦名条件”は関係ないので「棋戦名条件終了」の[SPACE]キーを押します。

次の対局者名で、[ROLL UP]または[ROLL DOWN]キーでリストを切り換え、「林葉直子」を矢印で選択し、[SPACE]キーを押します。例1に続きこの例も対局相手の指定がないので「対局者条件設定終了」の[SPACE]キーを押します。続いて戦型も指定する必要はないので「戦型条件設定終了」の[SPACE]キーを押します。

②局面検索条件指定

「検索局面の指定をしますか？」の質問が表示されます。[SPACE](はい)キーを押して下さい。画面が切り換わり、将棋盤の中央に手型カーソルが表示されたグラフィック画面があらわれます。

[↑][↓][←][→]または8（↑）2（↓）4（←）6（→）キーで手型のカーソルをまず“5の九”まで移動させます。[ROLL UP]キーを一度押すと「玉将」の駒が出現しますので[SPACE]キーを一度押してその駒を確定して下さい。

次に、玉将が付いたままの手型のカーソルを“6の八”まで移動させ、もう一度[ROLL UP]キーを押します。すると駒は「飛車」に変わりますのでそこで再度[SPACE]キーを押して駒を確定して下さい。これで局面の設定は終了しました。

この例では2駒の設定しか実行しませんでしたが、この局面設定は、1駒から40駒までの間で、あらゆる状況設定が可能です。[ROLL UP]または[ROLL DOWN]キーを押すことにより、成り駒、そして相手側の駒と自由に変化しますので、自分が検索したい局面にあわせて、駒の配置を設定して下さい。設定された局面を検索するとき、コンピュータは指定駒以外の駒のチェックはしません。ある位置に駒がないという条件を指定するときには、駒無を指定します。また、持駒を指定した場合は、指定数以上の持駒があるという条件となります。たとえば持駒の歩を2枚指定すると、持駒の歩が2枚以上ある局面が検索されます。なお、この“局面検索”は、先手、後手に関係なく、盤面を反転させた局面も同時に検索します。

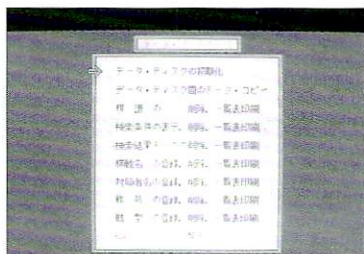
局面設定が終了したら[ESC]キーを押して下さい。これ以後は、例1と同じ要領で棋譜の再現まで進めていって下さい。

注意！ *局面設定の再現は、その局面から。*

例2で説明した局面設定で検索した棋戦データを再現すると、対局はその指定した局面から始まります。棋戦を最初から鑑賞したい場合は、◀または◀◀で一度手を戻し、▶で駒を進めて下さい。

第三章　棋譜を入力する

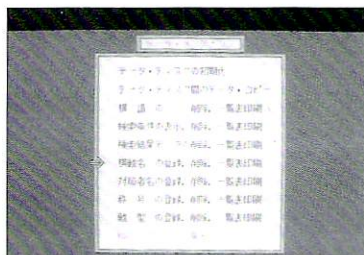
●新しいデータ・ディスクを初期化

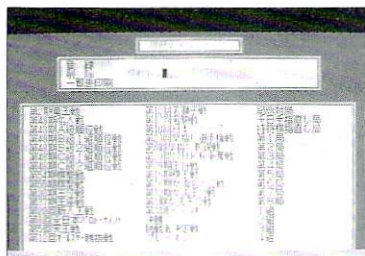
自分で新たな棋戦を入力する場合、まず2HDタイプのフロッピーディスクを一枚用意して下さい。ここに新しいデータが記憶され、これがあなた専用のオリジナルデータディスクとなります。

メイン・メニューの「データ・メンテナンス」を選択し、[SPACE]キーを押して下さい。データ・メンテナンスのメニューがあらわれたら、矢印を「データ・ディスクの初期化」にあわせ、[SPACE]キーを押して下さい。

ドライブ1に用意したフロッピーディスクをセットし、[SPACE]キーで初期化を実行します。しばらくドライブの作動が続き、フロッピーディスクの初期化が終ると再びデータ・メンテナンスのメニューが画面にあらわれます。これで初期化の準備はOKです。

●棋戦概要をまずは登録

ドライブ1にプログラムディスクをセットし、ドライブ2に今初期化したデータ・ディスクを挿入します。

具体的な棋譜を入力する前に、まずその対局の概要を文字入力します。概要とは、棋戦名、対局者名、称号、戦型の4つで、この中で特に決まった名前がないものや、すでに登録済みのものは、入力しなくてもかまいません。

では棋戦名を入力するため「棋戦名の登録、削除、一覧表印刷」を選び、[SPACE]キーを押します。画面が切り換わり"棋戦名メンテナンス画面"があらわれます。「登録」を選び[SPACE]キーを押します。なお、棋戦名の「削除」「一覧表印刷」も同じ要領で行います。

上部のウインドに棋戦名のブルーのラインが出現しました。英文で入力する場合はそのまま、日本文で入力する場合は[CTRL]+[XFER]キーを押し、日本語入力を呼び出して文字入力を進めて下さい。なお、文字は10文字まで入力可能です。

例："第10回町内将棋大会"と入力する

①日本語入力でまず『だい10かいちょうないしょうぎたいかい』と入力します。ローマ字かな変換の場合、"い"や"う"などのア行とヤ行の文字は、[SHIFT]キーを押しながら打たないと小文字になってしまうので注意して下さい。かな漢字変換を使用したい時には、カナキーをロックします。なお、カタカナを入力する場合は[F-3]キー(カタカナ／ひらがな入力切り換え)で切り換えられます。

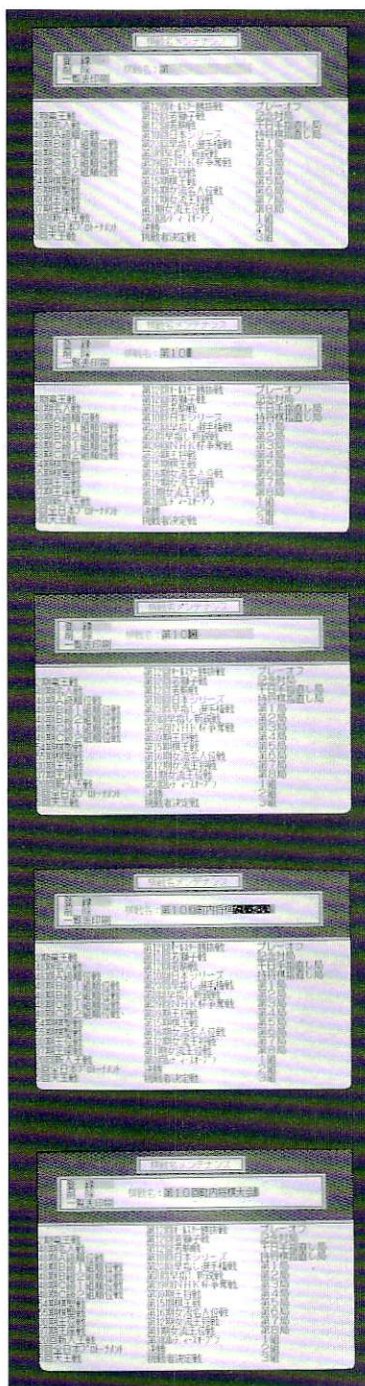
②[←]キーで、点滅するカーソルを、最初から3文字めの"1"の所に持ってきて[XFER]キーを押して下さい。"だい"の文字が"代"に漢字変換されました。

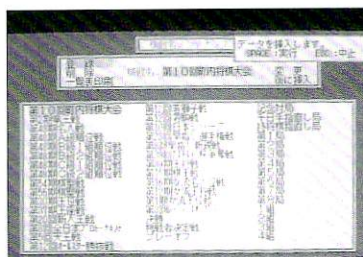
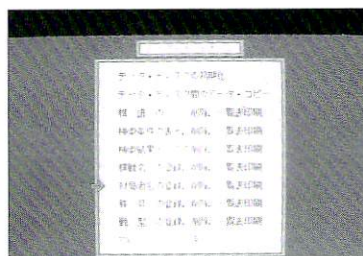
③[→]または[←]キーを押して漢字を選択します。“第”漢字が出現したら[↵]キーで指定します。

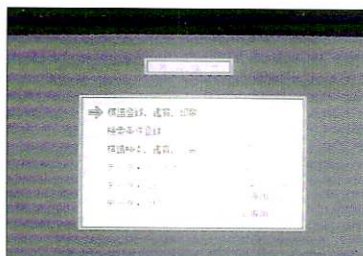
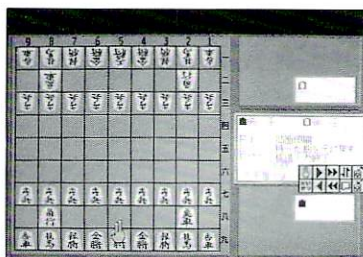
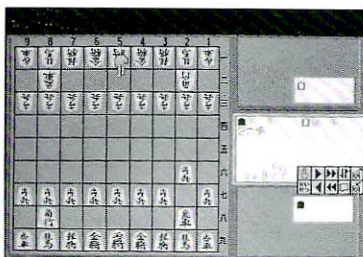
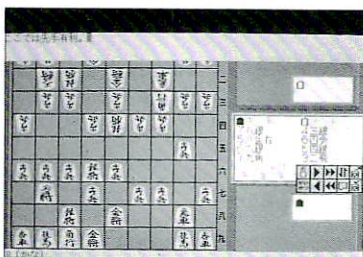
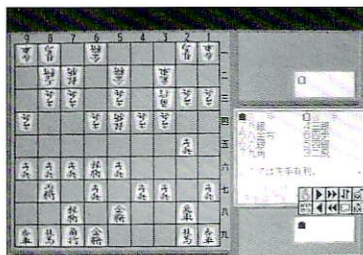
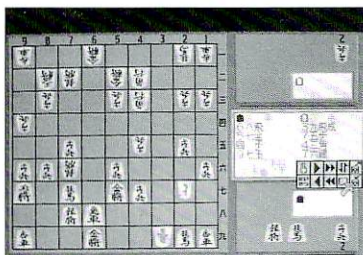
④次に、“10”の数字は漢字変換の必要はないので、“10”の後にある文字の“か”までカーソルを移動させ[↵]キーを押します。

⑤次に“かい”を漢字変換するため、“ち”までカーソルを移動させ[XFER]キーを押し漢字を選択します。

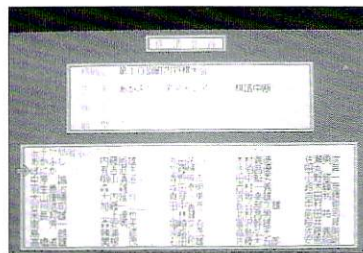
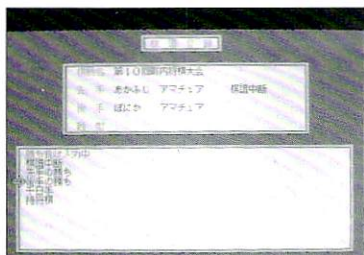
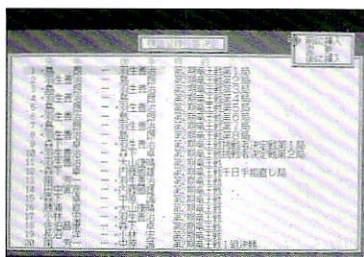
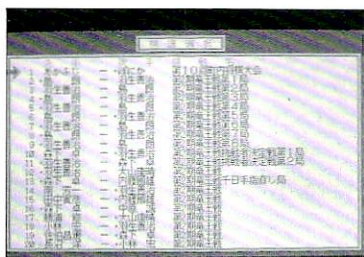
⑥同じ要領で“ちょうない”“しょうぎ”“たいかい”と、単語と単語の間で言葉を区切りながら漢字変換を進め、[↵]キーで決定していって下さい。なお、単語の中には一括変換できないものもありますので、その場合は一漢字ずつ(たとえば“ひ→飛”“しゃ→車”というように)変換を進めて下さい。

⑦こうして全ての入力が終了したら[ ]キーを2回押して下さい。なお、日本語入力の詳しい方法は、本体購入時に付随してきた「ユーザーズ・マニュアル」の日本語入力をお読み下さい。

棋戦名メンテナンス画面の下部ウインドに、矢印のカーソルがあらわれたら[SPACE]キーキーを押します。続いて上部ウインドの“変更”の横にカーソルが移りますので、“前に挿入”を選択し、[SPACE]キーを押して下さい。

「データを挿入します。」という確認のあと、[SPACE]キーを押すと下部ウインドに棋戦名が表示されます。なお、“前に挿入”とは、矢印のカーソルの前に新しい棋戦名を挿入するという意味で、“後に挿入”はその後となります。

対局者、称号、戦型の文字入力も基本的に同じ要領で入力できます。[ESC]キーでデータ・メンテナンスメニューに戻り、登録作業を進めて下さい。

●棋譜の入力方法

全ての棋戦概要の文字入力が終ったら、いよいよその対局の棋譜データを入力します。[ESC]キーで、データ・メンテナンス画面からメイン・メニューへと画面を切り換え、「棋譜登録、鑑賞、印刷」を矢印で指定して[SPACE]キーを押して下さい。

画面が切り換わり、将棋盤のグラフィック画面が表示されます。もう一度[SPACE]キーを押すと、画面下に手型のカーソルが出現します。

手型カーソルを動かしたい駒まで移動させ、[SPACE]キーを押し、駒を持ちます。次にその駒を打ちたい所まで持っていき、再度[SPACE]キーを押して駒を置きます。もし、動かす駒を間違えて持ってしまった場合は、BSキーを押して下さい。駒が元の位置に戻ります。

次に、手型カーソルが対局相手に移りますので、同じ要領で駒を動かし入力を進めて下さい。途中、大事な局面で解説を加えたいときは、[ESC]キーを押していったん棋譜入力を終了させます。そして矢印をアイコンの[かいせつ]へ移動させ、[SPACE]キーを押して、棋戦概要の文字入力と同じ要領で解説文を入力して下さい。なお、解説文は日本語で120文字まで入力できます。

文字入力が終ったら[↵]キーを押し、メッセージボードに正しく解説文が入力されているかを確認して、もう一度[↵]キー(または[SPACE]キー以外のキー)を押して下さい。アイコンの[ ]を指定し、さらに棋譜入力を続けて下さい。入力を間違えた場合は、[ESC]キーで棋譜入力をいったん終了させ、◀で手を戻し、再度入力をやりなおして下さい。

全ての棋譜入力が終了したら、[ESC]キーを押し、つづいて矢印をアイコンの[ ](データのセーブ)へ移動させ、[SPACE]キーを押して下さい。

●棋譜登録

画面が切り換わり、"棋譜登録画面"があらわれます。これから、先ほど入力した棋戦概要のデータをこの棋譜に登録していきます。始めに、画面下のウインドから棋戦名を矢印で選択し[SPACE]キーを押して下さい。上部ウインドの「棋戦名」の横にその文字が表示されたら「棋戦名入力終了」で再度[SPACE]キーを押します。

次に先手の名前を選択し、同じ要領で棋譜登録を進めて下さい。先手、後手の称号がない場合は、空白スペースのまま[SPACE]キーを押して下さい。

戦型の入力が終ったら、最後に勝ち負けの入力を行います。全ての棋譜登録が終了すると、「棋譜登録位置決定」と書かれたウインドが出現します。

これは、棋譜登録ボードに、今入力した棋譜データを登録するものです。[SPACE]キーを押すとボードにブルーのラインがあらわれ、画面右上に小さなウインドが出現します。その中の「前に挿入」を選択し[SPACE]キーを押して下さい。「データを挿入します」という確認の後に[SPACE]キーを押すと、データディスクへの保存が始まり、しばらくすると先ほど入力を終えた将棋盤のグラフィック画面に戻ります。これで、棋戦入力の全ての作業が終りました。

矢印のカーソルを[　](データのロード)に指定し、[SPACE]キーを押して下さい。“棋譜選択画面”に、今入力した棋譜が表示されているはずです。正しく棋譜が保存されたかの確認のため、矢印を今入力した棋譜へ移動させ[SPACE]キーで将棋盤のグラフィック画面が表示されますから、▶で手を進めてみて下さい。

第四章　データ・メンテナンスを活用する

●データディスク間で情報交換

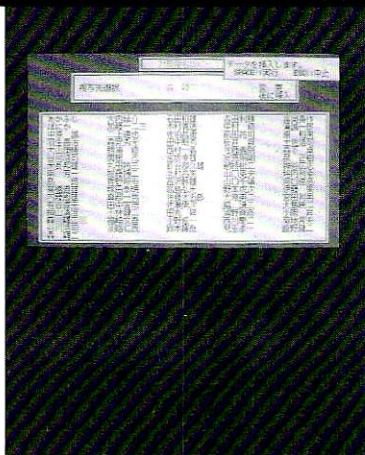
この「赤富士」は、データディスク間での情報を自由に交換することができます。たとえば、484局の棋戦が入力されたデータディスクの中から、自分のほしい対局のみを、オリジナルディスクへデータコピーすることができます。また、棋戦名や棋士名などのコピーも可能ですので、新聞や雑誌などに掲載されているプロ棋士の対局を、自分で棋譜入力するときなども便利に活用できます。

なお、データディスク間での情報交換を行うためには、データメンテナンスのデータディスクの初期化を行ったディスクを用意する必要があります。

●データ・コピーの方法

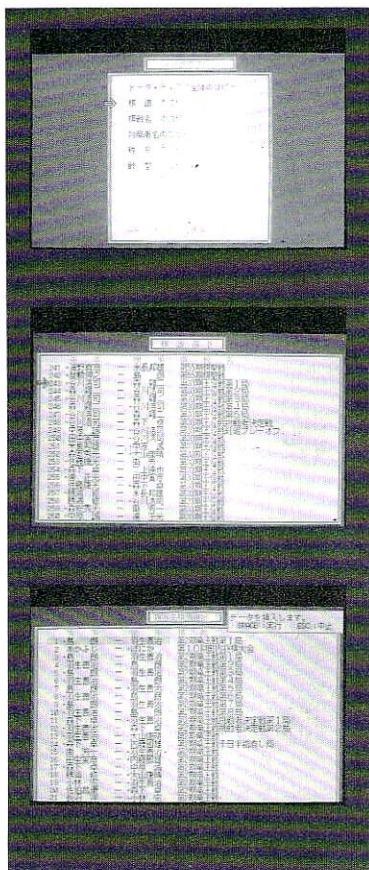
「データ・メンテナンスメニュー」から、“データ・ディスク間のデータ・コピー”を選択し、[SPACE]キーを押して下さい。6種類のコピーメニューが表示されたデータコピー画面があらわれます。

例：第30期王位戦第一局をコピーする

棋譜のコピーをする場合には、その棋譜が使用している棋戦名、対局者名等の名等をあらかじめコピーしておく必要があります。この場合、その内容は『第30期王位戦第一局、谷川浩司VS森雞二』ですので、まずコピーメニューの中から「棋戦名のコピー」か「対局者名のコピー」を選び[SPACE]キーを押して下さい。ドライブ2に複写元、ドライブ1に複写先のデータディスクを挿入し、[SPACE](実行)キーを押します。それぞれ必要な名前を登録ウインドにコピーしておきます。

名前のコピーが終ったら、コピーメニューの中から「棋譜のコピー」を選択し、[SPACE]キーを押します。

画面が切り換わり、484局の棋譜リストが表示されますので、[ROLL UP]または[ROLL DOWN]キーで“第30期王位戦第一局”(242番)をさがし、矢印で指定し、[SPACE]キーを押します。

複写先の場所を矢印で指定し、「前に挿入」「後に挿入」を決め、[SPACE]キーを押して下さい。コピーが実行されます。

なお、その棋譜が使用している棋戦名、対局者名、称号、戦型が複写先に登録されていないものを使用していると、その部分はスペースに置きかわってしまいます。

第五章　９８ＮＯＴＥで使用する

●モード設定

赤富士を起動する前に98NOTE SXメニューのモード設定で以下の様に「赤富士」の動作環境を設定します。

1．RAMドライブ用メモリの使用	RAMドライブ
2．システム起動装置の指定Ⅰ	標準
3．システム起動装置の指定Ⅱ	FD
4．第一ドライブの指定	FD
5．RAMドライブライトプロテクト	しない
6．内蔵モデムの設定	特に指定の必要なし

●起動方法

ドライブ1に「プログラムディスク」を挿入し、本体の電源を入れます。

●データコピー(FD→RAMディスク)

「メインメニュー画面」が表示されたら、データ・コピー(FD→RAMディスク)を選択し[SPACE]キーを押します。そしてドライブ1の「プログラムディスク」を「データディスク」に交換し、[SPACE]キーを押します。コピーが終了して「メインメニュー画面」が表示されたら、ドライブ1に「プログラムディスク」をセットします。

●「赤富士」の使用

第1章から第4章の方法で「赤富士」を使用できますが、その際にはドライブ1がフロッピィディスク、ドライブ2がRAMディスクと読み変える必要があります。

●データコピー(RAMディスク→FD)

データディスクへの変更、追加、削除を行った時には、「赤富士」を終了させるにあたって必ずデータコピー(RAMディスク→FD)を行なわなければなりません。

第六章　その他の注意点

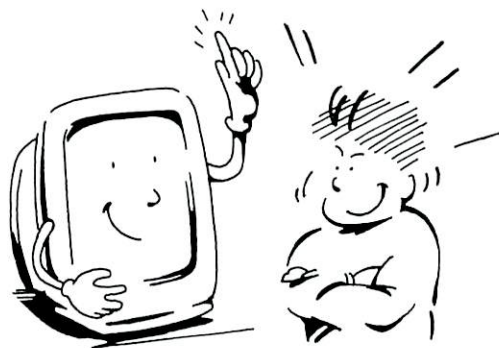
●棋譜の再現などを繰り返し実行していると、急に動作が止まってしまうことがあります。これはシステムのメモリ管理の方法によるもの(ガベジコレクションと一般的に呼ばれる)で、数秒間そのままでお待ちください。

●将棋年鑑の「データディスク」は、データ破壊防止のため書き込みができなくなっています。ですからデータメンテナンスのデータコピーでディスク全体のコピーをしたものを作成しそれを利用されることをお勧めします。

●日本語入力中には、かな漢字変換の学習機能のため、プログラムディスクに書き込みがなされます。ですから日本語入力を使用する時には、プログラムディスクを書き込み可にするか、学習機能をキャンセル(F10キー)する必要があります。

●１枚の「データディスク」には最大500までの棋譜を登録できます。ただし、手数が300を超える棋譜は登録できません。また局面解説(日本語120文字以内)は、１つの棋譜に最大50個まで設定できます。

●棋戦概要に登録できるデータ数はそれぞれ以下の通りです。
棋戦名…100、対局者名…200、称号…50、戦型…100

●利用者定義文字として先手後手マーク(☗☖)が漢字コード7621、7622に登録されています。局面解説の入力時にJIS16進コード入力(F5キー)で利用できます。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	処置方法
メモリ容量が不足です	「赤富士」の動作には384KB以上のRAMが必要です。
ドライブ1の準備ができていません	「プログラムディスク」が正しくセットされているかチェックしてください。
正しいプログラムディスクがセットされていません	
プログラムディスクに読み込みエラーが発生しました	
ドライブの準備ができていません	「データディスク」が正しくセットされているかチェックしてください。
データディスクに読み込みエラーが発生しました	
データディスクに書き込みエラーが発生しました	
データディスクが書き込み禁止になっています	
正しいデータディスクがセットされていません	「データディスク」は、データメンテナンスで初期化したディスクでないと使用できません。
データディスクに解説を書き込むスペースがない	不要な局面解説を削除してください。
このデータディスクには書き込めません	将棋年鑑の「データディスク」は、破壊防止のため書き込みができなくなっています。データメンテナンスでコピーしたディスクを使用してください。
回復不能のシステムエラーが発生しました	発生状況、同時に表示されるエラーコードを明記して御連絡ください。